

## IV 前計画の進捗状況

表-14 前基本計画の進捗状況

前計画の施策等	進捗状況
1 資源・エネルギー回収の徹底	
(1) 熱エネルギーの一層の有効利用	
①ごみ焼却余熱の有効利用 (施策1)	・平成20年度はごみ発電を21工場で実施、売電電力量は約4億3千万kWh、売電収入額は約44億円
②熱供給(施策1)	・平成20年度は有償熱供給を5工場で実施、供給熱量は約57万2千ギガジュール(GJ)、売払い収入額は約1億8千万円
(2) 資源回収の徹底	
①鉄の回収(施策2)	・平成20年度の回収実績は約3万2千トン、売却収入額は約11億4千万円
②アルミニウムの回収 (施策2)	・平成20年度の回収実績は約1千3百トン、売却収入額は約1億9千万円
(3) 新たな資源化に向けた 取組(施策3)	・平成19年度に溶融飛灰の資源化に関する調査委託を実施
2 環境負荷の低減	
(1) 環境保全対策 (施策4～6)	・大気・排水等環境指標に自己規制値を設け、自己規制値の遵守を確認している。 ・平成18年度から20年度について廃プラスチックの焼却に伴う実証確認を行い、環境への影響がないことを確認している。
(2) 環境マネジメントシステムの充実(施策7)	・ISO14011の認証について、新たにしゅん工した工場では再取得を、他の工場では更新あるいは維持を行い、環境管理が適切に行われていることを確認している。
(3) その他環境対策の推進 (施策8～10)	・計画期間内では、しゅん工した品川、葛飾、世田谷の各清掃工場で屋上・壁面の緑化及び太陽光発電設備の設置を行っている。また、中防灰溶融施設で屋上緑化、太陽光発電設備や風力発電装置の設置を行っている。さらに各施設で雨水の有効利用を行っている。

3 最終処分量の最小化	
(1) 焼却灰の全量溶融と溶融スラグ有効活用(施策11)	・平成20年度のスラグ搬出量実績は約9万9千トン、うち有効利用量は8万5千トン
(2) 粗大ごみ減容化の徹底(施策12)	・平成20年度の粗大ごみ搬入量は約8万9千トン、うち焼却処理量は約5万5千トン
(3) サーマルリサイクルによる廃プラスチックの減容化(施策13)	・平成20年度の区収集不燃ごみ量は19年度と比較して約58%減少
4 施設整備計画	
(1) 清掃工場の整備	・品川清掃工場(平成18年3月)、葛飾清掃工場(平成18年12月)、世田谷清掃工場(平成20年3月)しゅん工 ・平成20年4月大田清掃工場建替に着手(平成20年度は解体前清掃の実施)。練馬及び杉並清掃工場の事前調査に着手した。
(2) 灰溶融施設の整備	・中防灰溶融施設(平成18年12月)、葛飾清掃工場(平成18年12月)、世田谷清掃工場(平成20年3月)しゅん工
(3) その他施設の整備	・中防不燃ごみ処理センター第一プラントを平成20年4月に停止し、解体準備に入り、その跡地利用を含め、不燃・粗大ごみ施設全般の整備について検討
5 生活排水処理基本計画	・平成20年度は下水道投入施設での処理量は約1万9千3百kL、うち下水投入量1万8千7百kL、焼却量6百kL、埋立量40kL